

教科または領域	算数	
対象学年	小学校4年生	
授業場所	教室	
単元	折れ線グラフ	
単元の目標	伴って変わる2つの数量の変化のようすを折れ線グラフに表したり、その特徴を読み取ったりする能力を高める	
単元の指導計画	<p>第1次 折れ線グラフの読み方を理解し、グラフの特徴や傾向を読み取ることができる。</p> <p>第2次 折れ線の傾きと事象の変化の度合いとの関係を理解する。</p> <p>第3次 折れ線グラフのかき方を理解する。〈本時〉</p> <p>第4次 目盛りに破線を用いた折れ線グラフの表し方を理解する。</p> <p>第5次 まとめ</p>	
本時のねらい	折れ線グラフのかき方を理解し、折れ線グラフの理解を深める。	
指導計画	導入	(1)本時の課題をつかむ 1年間の気温の変化についての表を、プロジェクターを使って黒板に映し、気付いたことについて話し合う。(子どもの手元には同じ表を用意しておく)
	展開	(2)表の内容を折れ線グラフに表す 折れ線グラフのかき方の手順を一つずつ確かめながら、実際にグラフ用紙に記入していく。あらかじめ用意していたパワーポイントを映し、動きを入れ、より効果的に進める。グラフ用紙をスキャナーで取り込み、それを黒板に映し、その上に点や線を記入していく。 時間があれば、2つ目・3つ目の表を提示し、練習問題を通して、グラフのかき方を練習する。
	まとめ	(3)グラフのかき方をもう一度確認する。 展開時に使用したパワーポイントの要点をもう一度映し、グラフのかき方を振り返る。
<p>その他：</p> <p>グラフへの記入練習の際、一から黒板に線を引いては、準備に時間がかかり黒板のスペースも使うことになる。拡大したグラフ用紙を使うと、用紙の準備に手間がかかり、授業後はあまり使い道が無い。そこで、グラフ用紙をスキャナーで取り込んでプロジェクターで映すという方法を採用した。こうすると、黒板に描いたチョークの線を消すだけで次のグラフが描けるので、準備の手間もかからず便利で、かつ授業後に無駄な用紙も出ない。</p> <p>教室内にプロジェクターを持ち込むことで、子どもたちがいつもにも増して黒板を集中して見ている。プロジェクターで何かを映すだけでも、効果があったように感じられた。また、授業の内容をパワーポイントで作っておいて、授業と平行して映すことは特に効果が見られた。映像による提示は子どもたちにとって親しみやすく、提示した内容をよく覚えていた。ただ、準備の時間の割には、実際に映してみると短い時間で終わってしまうので、毎日の毎時間の授業で使うには負担が多いと感じられた。</p> <p>その他に教室内でプロジェクターを使うための準備などが、実際に使う上で負担になった。だが、目新しさも手伝ってその効果はとても大きく、これからも授業に取り入れていきたいと思った。</p>		